

## 【(5) 発問や指示・説明】

②「視覚的な手掛かりや具体例を挙げている」

## 【(8) 教材・教具】

④「本文、挿絵や図表を活用している」

### 《つまずきの背景》

A 刺激の影響の受けやすさ、B 言語理解の困難さ、C 記憶力の弱さ、D 文脈を理解することの困難さ、H 刺激の選択の困難さ、K イメージすることの困難さ、N 注意の持続の困難さ、O 見通しを持つことの困難さ、Q 状況理解の困難さ

### 《解説》

本文を拡大して提示することで、子どもの注目が集まりやすく、指示を明確に伝えやすくなります。また、国語の授業では、挿絵等を使うことで登場人物の心情や場面の様子を理解しやすくなります。算数（数学）の授業では、図表等を使うことで、立式までの流れを理解しやすくなります。

学級の中には、必要なことに注意を向けたり注意を持続したりするのが苦手な子どもがいる場合があります。その際、今考えることを視覚化（挿絵、図表等）することで、集中して取り組むことができます。また、言葉だけでは意味が分からなかったり記憶に残りにくかったりする子どもがいる場合には、視覚的な情報を活用することで、理解を助けることになります。

学年で分担して挿絵や図表を作っておくと、それを共有して使うことができます。

### 【工夫点】

- ・挿絵を使って、つながりが意識できるようにする。（小 工夫例 39）
- ・書画カメラで教科書をテレビに写す。（小 工夫例 40）

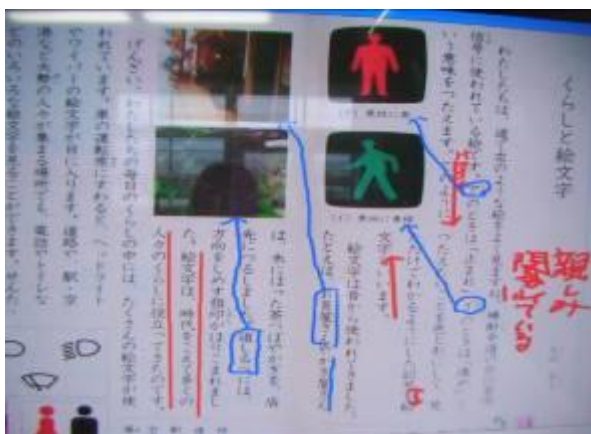
### ◆工夫例 39 「挿絵を使って、つながりを意識させるようにする」



#### 《国語（小学校2年生）》

物語文の内容を理解させるために、挿絵を活用します。どの挿絵がどの段落のものか、理由を説明させることで文章とのつながりが理解しやすくなります。

### ◆工夫例 40 「書画カメラで教科書をテレビに写す」



#### 《国語（小学校3年生）》

書画カメラで教科書をテレビに写して画面上で線を引いたり、文字を書いたりします。文字を書き込むことで、文章のつながりが理解しやすくなります。また、授業の途中で終わったらそのまま保存し、それを次の授業時にテレビに映すことができます。